

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	愛和ホーム株式会社	代表者	松井 滋	法人・事業所の特徴	グループホームを併設しており合同での催しや月1回のフリーマーケットを開催し地域交流を目指しています。ご利用者やご家族の状況、状態に応じてお泊りや利用時間の変更等、希望に添えるよう柔軟な支援を心掛けています。手作りの温かいお料理を提供する事で家庭的なぬくもりを感じていただけるよう努めています。				
事業所名	小規模多機能愛和	管理者	山崎 智子						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	4人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・ご利用者に関わった細かい情報も記録に残す又誰が見ても分かるように記入するよう心掛ける。自分自身でも情報収集を行う。 ・意見箱については誰が見るのが明確にする。今年度も意見箱を設置し意見が集まらない場合には他の方法を考える。	・意見箱を設置したが投稿無し。 ・本人情報については説明や申し送り、連絡ノートを活用し情報共有出来ている。	全てにおいて職員間での情報共有が一番となってくると思う。伝達漏れが無いように申し送りをするのは難しいと思う。後になってしまってもいいので伝えることが大切。「記録が薄い」の表現は分かりづらいので具体的に表現した方が良いと思う。	ご利用者の個々の様子が具体的に分かるよう記録に残す。文章化する事が苦手な職員も多いため、介護記録の書き方、事例等 研修や資料配布にて習得出来るようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	フロア内の整理整頓について必要物品の定位位置を決め使用後は戻す。必要な無いものはフロアに置かず破棄又は倉庫に保管する。	・物の定位位置は決まってきた。整理整頓も意識して出来た。	1人1人で意識して片づける事が必要だと思われる。	四季を感じていただけるような環境作りに取り組む。季節ごとの作品を作り事業所内に装飾を行なう。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナウイルス5類に伴い家族や外部の方に気軽に来て頂けるよう環境を整える。ボランティアの受け入れも開始する。(引き続き感染予防対策はしっかりと行う) 月1回のフリーマーケットを継続し地域の方との関わりを深める。	・ご家族の面会は体調確認を行い受け入れを行っている。 ・ボランティアの受け入れも再開している。(月2回絵本ボランティア) ・フリーマーケット月1回開催出来ている。(猛暑のため8月は中止した)	自治会の掲示板を改修、管理されている。 災害時の情報伝達にも使用できるようにホワイトボード、マグネットで貼り付ける事が出来るようになっています。 自治会館、改修工事を行い、高齢者も使用可能なトイレとなり、避難場所としても利用する事が出来ます。	地域の方が気軽に介護相談等に来ていただけるよう施設前の掲示板に相談受付時間等 誰が見ても分かるように掲示する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	事業所周辺だけではなく訪問介護先や送迎時等に出会う家族や近隣住人の方との挨拶を通して顔を覚えていただき関わりを深める。	・送迎訪問の職員は挨拶を通して近隣住民や家族と関わりを持つ事が出来ている。その他の職員は関わりを持つ機会が少ない。		地域のイベントに参加、散歩や外出レク等外に出る機会を増やす。
E. 運営推進会議を活かした取組み	ご家族やご利用者等、参加者を増やす事が出来る。事業所活動内容の報告。地域での困りごとなど情報交換を行い協力しあえる関係作りを行っていく。	・愛和通信でご家族やご利用者の出席依頼や意見を募っているが今のところ出席希望はなし。 ・2か月に1回運営推進会議を開催する事が出来ている。		運営推進会議の場を生かし情報交換を行い事業所として可能な限り、自治会の防災訓練や地域行事に参加交流を図る。
F. 事業所の防災・災害対策	BCP令和6年3月末までに作成する。 コロナ禍のため地域の方を含めた防災訓練を実施する事が出来なかった。事業所の防災訓練に地域の方や運営推進会議委員の方に参加協力お願いし防災意識を高める事が出来る。	・BCP作成しました。 ・地域の方や運営推進会議委員合同での防災訓練は実施出来ていない。		事業所内での月1回の防災訓練(地震、火事、水害)を継続する。